開会の辞……アンヌ・バヤール＝坂井　1

◇第一セッション《場面、視線、劇的空間》

垣間見――文学の常套とその変奏――……ダニエル・ストリューヴ　9
垣間見の場面／空蟬と軒端の荻／大君と中君／竹河／結論

源氏物語と源氏能のドラマトゥルギー――謡曲「野宮」との比較――……河添　房江　25
野宮の時空／世阿弥と源氏能／謡曲「野宮」の受容と解体／娘斎宮の物語と時間構造

記憶のかたち、かたちの記憶――源氏物語と絵画――……佐野　みどり　43
はじめに／筋の外、記憶の先望性／想起と回収／源氏物語のICON化

◇第二セッション《歌と語り》

世界とその分身――源氏物語の霧――……寺田　澄江　79
文学伝統としての霧／源氏物語の霧／秋以外の季節における霧／霧の

景の意味するもの／明石の霧／「夕霧」
『源氏物語』と「和歌共同体」の言語……土方　洋一　102
柏木述懐における和歌的表現／和歌的表現は誰のものか／「和歌共同体」のことば／言語の共同性に向けて
紅葉賀巻における対話——和歌と和歌引用の機能……ジャクリーヌ・ピジョー　121
葵上／源典侍／紫／藤壺／命婦／まとめ

◇第三セッション《時間と語り》

アネクドート、あるいはミクロフィクション、そして読者との関係……アンヌ・バヤール＝坂井　137
再読とミクロユニット／エピソードの自立性／再読と筋／フィクションの瘤、その遠心性について／レパートリーと空白
六条院への道——『源氏物語』の長編構造の仕組み……高田　祐彦　150
はじめに／二人の〈娘〉／三人の中宮／対話と回想／六条院の空間／季節と人間
薫と浮舟の物語——イロニーとロマネスク……藤原　克己　174
はじめに／道心ゆえに愛執になずむ薫／薫と浮舟の物語—梗概／薫を偲ぶ浮舟／浮舟を偲ぶ薫—蜻蛉巻の意味するもの／心は遠く隔たった

◇総　括

二〇〇八年パリ・シンポジウム　総括……藤原　克己 203
はじめに／透明さと不透明さ／垣間見と男の憧れ／垣間見における透明性と不透明性／サルトルのモーリヤック批判／能と源氏物語／筋の外／源氏物語における自然／和歌共同体の言語／森有正の「間接化された直接話法」「潜在的一人称」／和歌の不透明さ／源氏物語を読むということ／六条院四季の町の意味するもの／再読の問題について／総括の最後に

あとがき……寺田　澄江 227

執筆者紹介……232